

第Ⅱ部 ピアニストたちが奏でるワーグナー&ヴェルディ

日時：2013年3月23日(土) 13:00 開演 会場：東京文化会館 小ホール

●リスト - ワグナーの作品

リストとワーグナーは1840年パリで知り合った。途中、コジマの一件も含めて感情的な齟齬はあったものの、1883年にワーグナーが亡くなるまで、互いの信頼と友情は続いた。

「夕星の歌」レチタティーヴォとロマンス S. 444 は、1848年にピアノ用編曲が行われた。原曲は、1845年初演のワーグナーの歌劇《タンホイザー》第3幕第2場における、物思いに沈んだレチタティーヴォとヴォルフラムが歌う有名な「夕星の歌」である。

「エルザの結婚の行進」 S. 445-2 は、1852年にピアノ用編曲が行われた。原曲は、1850年初演のワーグナーの歌劇《ローエングリン》第2幕第4場で、ヒロイン・エルザが婚礼のために礼拝堂へ向かう「エルザの大聖堂への入場」の音楽である。

「巡礼の合唱」 S. 443 の原曲は、歌劇《タンホイザー》第3幕第1場において巡礼者が歌う「巡礼の合唱」。編曲は1861年に行われており、1885年に改訂された第2稿が存在する。

●リスト - ヴェルディの作品

歌劇《リゴレット》演奏会用パラフレーズ S. 434 は、ヴェルディ中期の傑作《リゴレット》(1851年初演)第3幕のよく知られた四重唱(マントヴァ公爵、リゴレット、ジルダ、マッダレーナによる)にもとづいたパラフレーズ。リストのパラフレーズ作品の中でも代表的なもので、編曲は1859年に行われた。ピアノならではの美感を生かして、華麗なるベルカントの頂点を描き切っている。

歌劇《トロヴァトーレ》のミゼレーレ S. 433 は、暗い情熱に支配された復讐劇《イル・トロヴァトーレ》(1853年初演)より、終幕のマンリーコと恋人レオノーラの二重唱、ミゼレーレの合唱が用いられている。編曲は1860年に行われた。陰惨な運命を暗示する鐘の音が低音域の重い打鍵で表され、リストのパラフレーズ技法が冴え渡る、非常にドラマティックな作品となっている。

歌劇《エルナーニ》演奏会用パラフレーズ S. 432 は、ヴェルディの5作目にあたる初期の傑作《エルナーニ》(1844年初演)から第3幕のアリアが用いられている。編曲は1849年頃に行われ、1860年に改訂されている。30代のヴェルディの若々しい情熱が見事に再現された作品である。